



▲福を授かる受講者の皆さん

「人権文化を考える―福を運んだ『でこまわし』―」と題し、ご自分の生きざまや想いを熱く語られました。また、徳島県内の被差別民衆が興

8月26日から9月12日にかけて、市立中央公民館と保健福祉センター香北で市民大学が開催され、全4講座に548人が聴講に訪れました。

本年度は、平野次郎さん（放送ジャーナリスト・NHK元解説委員）、辻本一英さん（芝原生活文化研究所代表）、太田夏江さん（心理カウンセラー・マーベルハート主宰）、常田富士男さん（俳優・声優）を講師に招き多彩な内容の講演が開催されました。

まちの話題



第3回市民大学―4講座に548人―



▲受講者に語りかける常田富士男さん

本年度の最終講座、常田富士男さんは、「常田富士男のあったか話―語りは祈りの心―」と題し、常田流の語りを存分に満喫することができました。誰もが常田さんの語りを一言も聞き逃すまいと、会場全体が水を打ったように静まり返り、受講者の皆さんの心の動きが手に取るように伝わってきました。また、常田さんの「雨二モマケズ」の朗読は、先生からの素晴らしい置き土産となりました。

平野さんは、「最近の国際情勢と日本の立場」をテーマに、県民に身近な坂本龍馬ゆかりの話や、環境、エネルギー問題など、たくさんのデータを提示しながら、私たちの置かれている現状と課題を分かりやすく話してくださいました。

辻本一英さんは、「人権文化を考える―福を運んだ『でこまわし』―」と題し、ご自分の生きざまや想いを熱く語られました。また、徳島県内の被差別民衆が興

した伝統芸能の復活と継承に意欲的に取り組んでおられます。同行の演者中内さんと南さんによる演目「三番叟（さんばそう）まわし」と「芝原えびす舞」は、とても感動的でした。

太田夏江さんは、「後年期を幸年期に―脳の寝たきりを防ごう―」をテーマに心と体両面の健康の大切さを話されました。食の話や呼吸法、操体法、プラス思考が大切なことなどを分かりやすく話してくださいました。講演の最後には「南京玉すだれ」実演のおまけまで付いて和やかな講演会となりました。

本年度の市民大学も、大勢の皆さま方のご協力により盛会のうちに無事終了することができました。ご協力どうもありがとうございました。

来年度の市民大学もご期待ください。
（中央公民館）

消防団が合同訓練

市内の3つの消防団（土佐山田消防団、香北消防団、物部消防団）および市消防署の団員、署員ら約150人が、互いの団結・連携を深めようと、9月7日に合併後初めての合同訓練として、土佐山田町小田島の物部川河川敷でホースの延長要領やポンプ運用などを競い合う訓練を実施しました。



▶日頃の訓練の成果を発揮して

南海地震に備えたトリアージ訓練を実施

9月14日 プラザ八王子で、香美郡医師会や香美市などによる（高知県災害医療対策中央東支部会議主催）トリアージ訓練が行われました。医師・看護師や

自主防災組織など地域住民も含め約170人の参加があり、震度6弱の巨大地震が発生し多くの人が負傷したという想定で、訓練しました。

消防署員が負傷者の搬送などを実演した後、グループに分かれて、呼吸や反応の有無などにより緊急度を診断（トリアージ※）しました。その後、処置エリア



▲トリアージ訓練の様子

で血圧・脈拍・外傷の所見などをトリアージタグに記載するなどの訓練をしました。

大災害時には医療機関に直接出向いても、医療を受けることができません。香美市が「医療救護所」を設置します。そこに、医療関係者や市役所職員が集まり、トリアージによる振り分けと応急処置をします。

なお、現時点での香美市の医療救護所は山田小学校・香北病院駐車場・大柝診療所となっています。

※トリアージ：大きな災害が発生し数多くの死傷者が出た場合、できるだけたくさんの人命を救うためには、傷病者の緊急度を分け、適切な治療を行う必要があります。この緊急度を4つの段階（黒・赤・黄・緑の4色のタグで識別）に分け、治療の優先順位を決定するのがトリアージです。大規模な災害では医療スタッフや医療品にも限界があるので、このような措置が必要になります。

コーヒーサービスで安全運転をPR



▲一人ひとりに「安全に」と願いを込めて

秋の交通安全運動期間中の9月24日、市商工会サービスが香美警察署前で行われました。過労運転・居眠り運転の防止を目的に毎年行われているもので、今年で38回目となります。

当日は、商工会員のほか交通安全関係団体等も参加し、ドライバーに「安全運転で、お気をつけて！」と笑顔でコーヒーを手渡していました。

地域住民等と交流 白ゆりまつり開催

9月6日、「白ゆりまつり」がワークセンター第二しらゆりで開催され、同施設の利用者や保護者・地域住民の方々が参加し、楽しいひとときを過ごしました。

「白ゆりまつり」は知的障害のある人たちと地域住民との交流を目的として毎年行われています。今年も地元幼稚園児や小学生、地域住民の方々によるサークル等が歌や踊りを披露してまつりを盛り上げました。また、商工会や明治地区婦人会・工科大学等の出店にはたくさんのお客さんが並び、知的障害を持つ人たちとの交流を深めていました。



▲地元の交流の場に

香美市で初の 四国・中国マレットゴルフ大会



▲他県の選手とも交流を深めました

9月23日、花・人・土佐であい博参加事業の一環として、初の四国・中国マレットゴルフ交流大会が予岳の土佐山田マレットゴルフ場で開催されました。

大会には市内から26人、他県から81人が参加し、青空の下、熱戦を繰り広げるとともに、交流を深めました。

市内の出場者の上位結果は、次のとおりです。

【結果】

優勝Ⅱ中内イクノ
準優勝Ⅱ柴田 達男



▲青空の下、元気よくスタート！

また、コース途中から35人の子どもたちがいかだ下りに挑戦しました。材木をいかに組んで運んだ”という昔のエピソードにちなんで毎年行われているもので、子どもたちは竹ざおを手で2人1組で協力して2キロメートルのコースを下っていました。

指しました。

野中兼山ゆかりの史跡を巡る「舟入川ウォーキング」

人々の交流や農業用水として重要な役割を果たしてきた舟入川沿いを歩き、香長平野の歴史に触れる「舟入川ウォーキング」が9月23日に開催されました。

このイベントは、山田堰井筋土地改良区が中心となつた実行委員会が主催したもので、今年で6回目の開催となりました。

川合同堰の視察や旧山田堰にある春野神社に参拝し、全8キロメートルのウォーキングに出発。途中の中野公民館の休憩所では、地元住民の方々によるお茶の接待や舟入川を開発した野中兼山の歴史教室や紙芝居があり、参加者はひとときの休憩を楽しみました。その後、舟入川や周りの風景を楽しみながら、ゴールを目指しました。

高知県、工科大等とパートナーズ協定 ―「環境先進企業との協働の森づくり事業」―

▶左から門脇市長、佐久間学長、岡崎後援会長、尾崎知事



9月8日、高知県庁において県が推進する「環境先進企業との協働の森づくり事業」のパートナーズ協定書調印式が、高知工科大学、高知工科大学後援会、高知県、香美市の4者によって行われました。

今回の対象森林地は物部町押谷の市有林など約25haで、名称は「高知工科大学―物部川共生の森」となりました。本年度から3年間、植栽や間伐などの森林整備を行うとともに、物部川の濁水や濁水などの環境保全活動やシカの食害問題などにも取り組んでいく予定です。

協賛金を支出する高知工科大学後援会の岡崎会長はあいさつで「後援会は今まで学生の勉強だけでなく、就職活動、課外活動などを支援してきました。今回も学生支援の延長で、学生たちに地元の環境問題に関心を持ってもらいたい」と語っていました。

今回の協定は高知県では31件目で香美市においては、「ルネサスの森」に次いで2件目となります。

農業委員会が「農業施策に関する建議書」を提出

9月4日、香美市農業委員会（原心一会長）は現在の厳しい農業情勢から、各種農業施策の継続実施や、有害鳥獣の食害対策についての要望を盛り込んだ「農業施策に関する建議書」を門脇市長に提出しました。

建議書は、各地域で集落協定組織を締結し農地の多面的機能を保全するために有効な「中山間直接支払制度」の継続実施や、有害鳥獣の食害対策として補助金制度の拡充、広域的な防護柵の設置についての要望のほか、農業経営者の後継者不足による遊休農地および耕作放棄地の増加に対する農地流動化対策の強化や、米対策への取り組み、園芸振興対策などについても提言しています。



▲原会長から建議書を提出